

民主化闘争情報

No. 939

2016年4月28日
発行 日本鉄道労働組合連合会
(JR連合)

4月に入って、JR北海道労働組合（JR北労組）で組織拡大が相次いでいる。4月1日付と同11日付で自動車支部厚別分会、同19日付で自動車支部手稲分会が新たな仲間を迎え入れた。これでJR北労組の組織拡大は、大会以降8人目となったが、とりわけ自動車支部の健闘が光っている。

JR北労組で組織拡大相次ぐ 4月だけで自動車支部が3人拡大！

安全・安心の確保へ労働組合の積極的な関与が必要！

自動車支部の組合員が働くバス業界では、今年1月に長野県軽井沢町でスキーバス事故が発生し、事故後に行われた国土交通省の監査で杜撰な運行管理や旅行会社から基準を下回る料金設定で運行受託していた事実が明らかになるなど、関越自動車道ツアーバス事故（2012年）の教訓がまったく活かされていない実態が浮き彫りとなっている。

利用者の安全・安心を確保することは、第一義的に事業者が取り組むべき課題であるが、会社施策や経営を不断にチェックする労働組合の果たすべき役割は大きい。さらに、現場で直接業務に携わるのは組合員であり、労働組合の積極的な関与が必要である。JR連合では自動車連絡会を中心として、バス業界の構造的な課題に対する行政への意見提言に取り組んできたところである。

JR北労組「JR北海道再生プラン」の実現を！

JR北労組は、JR北海道で発生した一連のトラブルや事象を受けて、2013年11月に「JR北海道再生プラン」を内外に明らかにした。安全第一で風通しの良い企業風土の確立にむけて、JR北海道の真の再生を期すために労働組合としての社会的使命を愚直に展開していく決意を明らかにしたところである。

JR北海道では、国土交通大臣からの事業改善命令・監督命令を受けて、第三者機関として「JR北海道再生推進会議」が設置され、2015年6月に提言書が示された。提言書には、JR北労組が「JR北海道再生プラン」で主張したものと同等の内容が数多く盛り込まれており、JR北労組運動の正しさが証明されている。

**安全の確立と民主化闘争の完遂に取り組む
JR連合・JR北労組に結集しよう！**